

2016 Jikji International Road Race レポート 第4ステージ

2016-0519 発信

大会4日目、第4ステージ。

昨日と同じホテルに連泊だったので朝の慌しさはなし。ただし、予定していた 8:30 出発だと朝のラッシュに巻き込まれる恐れありとのことで、8:00 にホテルを出発した。

選手は近くの食堂にて、おでんスープ？（ちょっとスパイシー）とご飯ですませ、身支度にはいる。さすがに疲労色が見え始めたが、食べる選手は走れている。食事の様子と顔色を見ていれば大体のコンディションは分かる。

ホテルから 4km ほど離れた公園が今日のスタート地点、スタートアーチ近くに審判車両が停まっており、それ以外のスペースは基本的に自由に駐車している。おおらかで非常に良いと感じた。

スタッフは昨日に続き、ホテル横のコンビニで軽食とコーヒーのみ。選手に合わせて食べていると大変なことになる？

第4ステージは、ラジオツールから流れてくる情報を時系列にまとめて、後段に選手のレポートをまとめてみた。

<ラジオツールより>

14 kmまでは、一つの集団で進行 14 km 一人がアタック 100m 差→吸収

20 km 4 人アタック→吸収

40 km 補給開始

成海、佐藤、相葉が補給を要求。成海、佐藤が栗原、花田にボトルを運ぶ役割

補給を取りに来るのに集団後方より離れ、無駄足が多い

85 km 満田ドロップ 7 名エスケープ 日本選手はいない

88 km 先頭から 3 名ドロップ 4 名となる→集団に吸収

92 km 相葉落車→車輪をしめなおして再乗

95 km 成海 佐藤補給 5 名エスケープ（40 秒）セカンドグループ 2 名形成（30 秒）メイン集団

104 km リーディンググループチームカーは集団前方へ

112 km 先頭集団 3 名（45 秒）セカンドグループ 7 名（20 秒）メイン集団

115 km 先頭集団 3 名（47 秒）メイン集団 セカンドグループは吸収

その後メイン集団より 2 名追走（40 秒）先頭集団（30 秒）メイン集団

タイムギャップは変動（32 秒→27 秒→20 秒）

120 km 7 名アタック（20 秒）メイン集団

121 km 先頭集団（25 秒）メイン集団

122 km 先頭集団（35 秒）メイン集団

123 km 先頭集団（30 秒）メイン集団

finish 先頭 7 名はゴールスプリント メイン集団ゴールスプリント（最終コーナー落車あり成海巻き込まれ）

以上、安達、野田コーチの記録より

<選手レポート>



栗原 悠（千原台 3 年）

レース序盤アタックに反応した。しかし、思うように体が動かず、調子が悪い？と思ったので、まずは集団内で様子を見た。中盤で満田君が集団からいなくなったので、相葉君がエースになった。何度もアタックはかかるものの全て決まらなかった。そして相葉君が落車した。作戦を変更した。集団スプリントになると予想し、佐藤君と成海君、花田君と自分のペアでトレインを組み両サイドから行くことにした。

しかし、自分の不注意で逃げた選手がいることに気づかなかった。その差は縮まらず残り 1km を迎えた。そして、最後のコーナーで落車が起きトレインを組んでのスプリントはできないと判断し、他の選手の後ろについてスプリントした。集団では 3 着か 4 着でのゴールだった。

今日は最後に大きなミスをおかしてしまったのが一番の反省点だ。集団スプリントになると思い込んでいたために逃げを意識していなかった。結果このようなミスが起きた。明日は常に警戒しチーム一丸となりステージ優勝を取りに行きチームでも優勝を狙っていく。



満田 光紀（千原台 3 年）

今日のコースは短い上りと下りもあるが平坦多めのコースで、距離は 125km ほど（コースマップの距離と自転車のメーターの距離が毎日違う）だった。レースは 9:30 から始まり 2km ほど行った後パレードが解除されリアルスタートした。スタート直後からアタック合戦が行われたが逃げが決まることはなかった。自分もアタック合戦に参加したが 70km あたりで疲れてしまい集団後方まで下がってしまった。その後、前での落車で集団から離れてしまいそのまま DNF となった。

今日のレースでは、アタック合戦には参加できたが無駄な場面があった。明日は無駄なアタックに反応せずスプリントができる状態でゴール前まで行く。



相葉 健太郎（九州学院 3 年）

ミーティングで話した通り最初からアタック合戦だった。

調子は悪くなかった。最初から前の方に位置して、多くのチームのアタックに付いて行けた。付いて行けたが、なかなか逃げは決まらなかった。

途中 60 km地点くらいでペースが落ちたので、補給をしに一旦集団の後ろの方に下がった。この大会の中で補給を初めて行ったがスムーズに補給ができた。その後もアタック合戦があったが付いて行けたが、緩んだ時に落車をしてしまった。痛かった。先生方の助けもありすぐに立ち上がる

ることができたが、集団と 5 分差がつきリタイアとなった。



佐藤 健（九州学院 2 年）

今日も出走は 9:30 で、コースはホテル近くの公園スタート。ほぼ一周して帰ってくる片道コースで距離 125km だった。

スタート直後から積極的にアタックがかかっていたが、どれも決まらず、40km 辺りから集団は落ち着いた。

それからは何度かのペースの上下があり、残り 25km ほどで 3 名の選手が飛び出し、集団から見える位置で逃げが決まった。それに 4 名の選手がブリッジをかけ、7 名の逃げ集団が形成された。

そこから集団はスプリント体制にはいり、残り 1km の交差点で落車が発生、それにより一度ペダルを外してからスタートとなり、ゴールには全く絡めなかった。

今日の前半は予定通り相葉君と満田君がメインのレースが出来たが、2 人ともトラブルでリタイアしてしまったため、残りの 4 人でスプリントに臨んだが、その全員が落車の影響を受け、思い通りのレースができなかった。

明日が最終ステージとなるので気を抜かず、力を出し切って日本に帰りたい。



花田 凱成（祐誠 3 年）

今日のコースは前半から短いアップダウンをこなして中盤から終盤にかけて、一気に登って下るという感じだった。

前半から、チーム総合をひっくり返したいチームと、順位を守りたいチームとの駆け引きで激しいアタックが多く、とてもハイペースだった。

終盤の登りで少しペースが落ち着いたので、集団の前方に位置取りが取れたが、下りに入るとすぐに飲みこまれてしまって、終盤に出来た逃げに反応出来ず、そのまま集団のゴールスプリントでフィニッシュした。

今日は後半の登りで前に出られたのは良かったが、下りで簡単に集団に飲み込まれてしまったのが悪かった。大集団での位置取りが課題となるレースだった。



成海 大聖（普天間 2 年）

今日は起床後、昨日の疲れを感じた。4 日目にして初めて疲労を感じた。このままではレースで力を発揮できないと思いアップを 30 分入念に行いスタートに備えた。

バイクチェックを済ませ、9 時 30 分にスタートした。スタート後 3 キロはパレード走行だった。リアルスタートからアタック合戦が始まる事を予想して集団の前方で様子を伺った。予想通りアタック合戦は始まり、満田君、相葉君を中心にアタックに反応した。

しかし、そのアタック合戦で決定的な逃げは決まらなかった。その後は、レース終盤までペースの上げ下げはあるものの比較的落ち着いた展開であった。

動きがあったのはラスト 25 キロ地点で、横風が強く吹く中、7 名の選手が先行、その逃げは集団で回せば追いつくと考

え、無理にブリッジはかけなかった。しかし、予想は外れ、その逃げは集団と 30 秒差を保ったまま逃げきった。

その後ろのメイン集団はゴールスプリントとなったが、ラスト 800 メートルで落車が発生し、足止めをくらい、スプリントは不発だった。

今回の反省点は、ゴールスプリント勝負になると決めつけ、そのための走りしかできなかったことだ。結局足を残してのゴールとなってしまった。明日は最終日、この 4 日間届かなかったステージ 3 位以内を目指して頑張りたい。

毎日の生活とレースの経験を通して、目覚ましい成長を続けている選手たちに、ただ脱帽である。

明日は最終日、成績もさることながら、は事故、怪我なくゴールを迎えて欲しい。

文責：中田（全国高体連自転車競技専門部）



<スタート前>

スタート前のセレモニーが始まる前に集合、日本でそのような習慣がなにもので、意識はしていてもいつも出遅れる。



<補給>

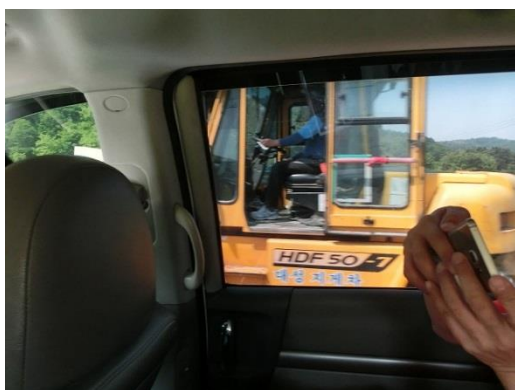
集団で手を上げてチームカーを呼び、補給を受け取る。受け取ることは出来るが、どうしても集団から離れて追いつけなければならない。



<集団への復帰>

メカトラブル、パンク、落車等からの復帰は写真のようにチーム車両をうまく風除けに利用しながら集団復帰を目指す。または、チーム員が下がってきて、チームメイト先頭交代をしながら復帰する。





<コース途中>

写真のようなトラクターが普通に道路を走っており、選手団の通過に合わせて路肩に停車する。反対車線も同様で、いつこのような障害物？があるか分からないので、常に中が必要である。



<フィニッシュ地点>

どのステージも幅員は、2車線程度はあり。今日のフィニッシュはバイパス道路？きれいに舗装されているが、周囲には田んぼ？宅地造成中？であった。選手の収容車が通過して、15分もすればアーチは畳まれ、何ごともなかったように誰もいなくなる。



<アイシング>

アテンドの友人のご好意でアイスパック(氷嚢)をお借りすることができた(営業？)ので、早速利用させて頂いた。

前回もアテンド頂いた方なので気が知れているので何でも頼みやすい。



<ホテルへの移動>

幹線道路もチームカーで誘導しながら、ホテルへ移動する。日本のチームだけでなく、どのチームも同様に移動し安全？を確保して移動している。